

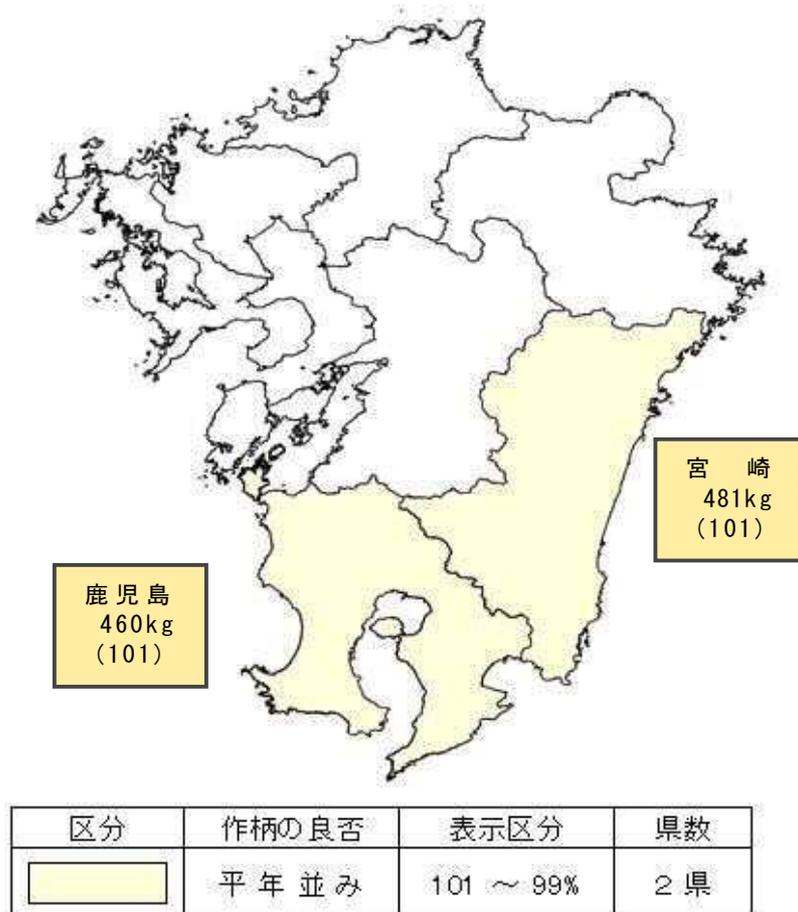
令和3年産水稻の8月15日現在における作柄概況（九州）

— 8月15日現在の早期栽培（宮崎県及び鹿児島県）の作柄は「平年並み」 —

【調査結果の概要】

早期栽培の作柄は、宮崎県が10a当たり予想収量481kg（作況指数101）、鹿児島県が同460kg（同101）で両県ともに「平年並み」が見込まれます。

図1 早期栽培（宮崎県及び鹿児島県）の作柄の良否（作況指数）



注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mm ふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 2 作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（宮崎県及び鹿児島県では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

本統計調査結果は、九州農政局ホームページ「統計情報」の「令和3年度農林水産統計調査公表予定および公表結果」でご覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_all_press_R03.html 】

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の概要】P8に掲載しています。

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める宮崎県及び鹿児島県における早期栽培の作柄概況については、実測調査した結果を集計しています。
(九州における令和2年産(前年産)収穫量割合：早期栽培6.9%)
- ・ 遅場地帯(九州該当)の8月15日現在(宮崎県及び鹿児島県の早期栽培を除く。)の作柄の良否については、気象データ(降水量、気温、日照時間、風速等)及び人工衛星データ(降水量、地表面温度、日射量、植生指数等)から作成される予測式(重回帰式)に基づき作柄を予測(以下「作柄予測」という。)したものです。

◎ 水稻の作柄予測及び水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律(平成6年法律第113号)に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法(昭和22年法律第185号)に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

表1 水稻(子実用)の年次別推移(九州)

年産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	183,500	505	927,000	181,300	915,400	100
24	183,300	489	895,700	181,200	884,500	97
25	183,500	488	895,700	180,900	882,900	97
26	178,200	482	858,800	173,700	837,300	96
27	170,700	484	826,800	166,300	806,100	96
28	165,700	507	839,700	161,300	817,500	101
29	163,100	510	831,900	158,700	811,400	101
30	160,400	512	821,300	156,100	800,000	102
令和元年産	160,000	435	696,400	155,100	674,300	86
2	158,600	440	698,500	153,200	673,300	85

注：1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積です。(以下同じ。)

2 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

3 主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積です。

4 作況指数は、10a当たり平均収量に対する10a当たり収量の比率であり、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(九州は、1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出していました。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

【令和2年産以降の作況指数算出に用いるふるい目幅(九州管内)】

- ・ 農家等使用目幅1.85mm 福岡県、佐賀県、熊本県
- ・ 農家等使用目幅1.80mm 長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県

【調査結果】

1 早期栽培の作柄概況(宮崎県及び鹿児島県)

- (1) 穂数は、分けつ期の4月中旬から5月上旬の気温が平年を下回って経過したことや梅雨入り後の日照不足の影響から、生育(分けつ)が抑制され、宮崎県では「少ない」、鹿児島県では「やや少ない」となりました。
- (2) 1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の5月下旬以降に曇雨天日が多く寡照に経過したものの、穂数が少ない宮崎県では「多い」、穂数がやや少ない鹿児島県では「平年並み」となりました。
- (3) 全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数の状態により、宮崎県では「平年並み」、鹿児島県では「やや少ない」となりました。
- (4) 登熟は、7月の日射量が概ね平年並みに確保されたことや、登熟前期の7月上旬から7月中旬の気温日較差が平年を上回って経過し粒の肥大が促進されたことから、宮崎県及び鹿児島県ともに「やや良」と予想されます。
- (5) 以上により作柄は、宮崎県が10a当たり予想収量481kg(作況指数101)、鹿児島県が同予想収量460kg(同101)で、両県ともに「平年並み」が見込まれます。

表2 令和3年産早期栽培(宮崎県及び鹿児島県)の10a当たり予想収量(8月15日現在)

区分	10a当たり 予想収量 ①	農家等が使用している ふるい目幅で選別			
		最も多い使用 割合の目幅 ②	10a当たり 予想収量 ③	10a当たり 平年収量 ④	作況 指数 ⑤=③/④
	kg	mm	kg	kg	
宮崎	481	1.80	476	470	101
広域沿海	481	1.80	476	470	101
鹿児島	460	1.80	449	446	101
薩摩半島	430	1.80	418	436	96
大隅半島	495	1.80	482	463	104
熊本・大島	409	1.80	404	411	98

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 2 ③10a当たり予想収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表3 令和3年産早期栽培(宮崎県及び鹿児島県)の作柄概況及び刈取済面積割合(8月15日現在)

区分	平 年 比 較				刈 取 期			刈取済面積割合	
	穂数の 多 少	1穂当たり もみ数 の多少	全もみ数 の多少	登熟の 良 否	最盛期	最盛期の比較		当年値	対平年差
						対平年差	対前年差		
					月 日			%	ポイント
宮崎	少ない	多い	平年並み	やや良	8. 2	2日遅	1日早	96	△ 2
広域沿海	少ない	多い	平年並み	やや良	8. 2	2日遅	1日早	96	△ 2
鹿児島	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	8. 5	並 み	4日早	72	△ 12
薩摩半島	少ない	やや少ない	少ない	良	7. 30	3日早	5日早	96	△ 3
大隅半島	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み	8. 11	1日遅	4日早	52	△ 20
熊本・大島	少ない	平年並み	少ない	良	7. 22	3日早	6日早	100	0

注：1 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや少ない・やや不良」が98~95%、「少ない・不良」が94%以下に相当します。
 2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示します。

2 宮崎県（早期栽培）

(1) 調査結果の概要

宮崎県における8月15日現在の早期栽培の作柄は、穂数は「少ない」、1穂当たりもみ数は「多い」、全もみ数は「平年並み」、登熟は「やや良」となったことから、10a当たり予想収量は481kgで、作柄は「平年並み」（作況指数101）が見込まれます。

(2) 調査結果

ア 早期栽培の作柄概況

(ア) 生育は、分けつ期の4月中旬から5月上旬の気温が平年を下回って経過したことや梅雨入り後の日照不足の影響から分けつが抑制され、5月中旬以降は気温が平年を上回って経過したものの、出穂最盛期は平年に比べ1日遅い6月25日となりました。

また、刈取最盛期は、登熟後期にあたる7月中旬から7月下旬に降雨日が続いたことから、平年に比べ2日遅い8月2日となりました。

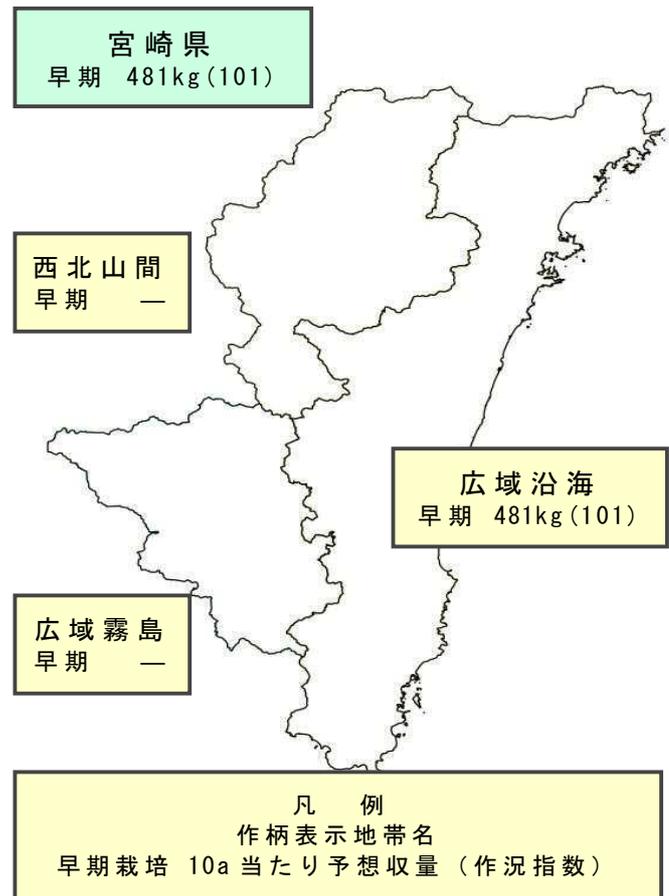
(イ) 登熟は、7月の日射量が概ね平年並みに確保されたことや、登熟前期の7月上旬から7月中旬の気温日較差が平年を上回って経過し粒の肥大が促進されたことから「やや良」と予想されます。

(ウ) 被害は、気象被害では、7月中旬の降雨の影響により一部で倒伏がみられました。

病害では、いもち病や紋枯病の発生がみられました。

虫害では、スクミリンゴガイの発生がみられました。

図2 作柄表示地帯別早期栽培の10a当たり予想収量(子実用)



- 注：1 10a当たり予想収量は、1.70mmふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 2 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。
 宮崎県においては、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
 3 図2中の「—」は、事実のないことを示しています。

作況指数	作柄
106以上	良
105~102	やや良
101~99	平年並み
98~95	やや不良
94以下	不良

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
広域沿海	宮崎市、延岡市、日南市、日向市、串間市、西都市、国富町、綾町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町
広域霧島	都城市、小林市、えびの市、三股町、高原町
西北山間	西米良村、諸塚村、椎葉村、美郷町、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町

3 鹿児島県（早期栽培）

(1) 調査結果の概要

鹿児島県における8月15日現在の早期栽培の作柄は、穂数は「やや少ない」、1穂当たりもみ数は「平年並み」、全もみ数は「やや少ない」、登熟は「やや良」となったことから、10a当たり予想収量は460kgで、作柄は「平年並み」（作況指数101）が見込まれます。

(2) 調査結果

ア 早期栽培の作柄概況

(ア) 生育は、分けつ期の4月中旬や5月上旬の気温が平年を下回って経過したことや梅雨入り後の日照不足の影響から分けつが抑制されたものの、6月の気温が平年を上回って経過したことから、出穂最盛期は平年に比べ1日早い6月24日となりました。

また、刈取最盛期は、登熟期の7月上旬から7月中旬に曇天日が続いたものの、7月下旬から8月上旬の天候に恵まれたことから、平年並みの8月5日となりました。

(イ) 登熟は、全もみ数がやや少なくなったことに加え、7月の日射量が概ね平年並みに確保されたことや、登熟前期の6月下旬から7月中旬の気温日較差が平年を上回って経過し粒の肥大が促進されたことから「やや良」と予想されます。

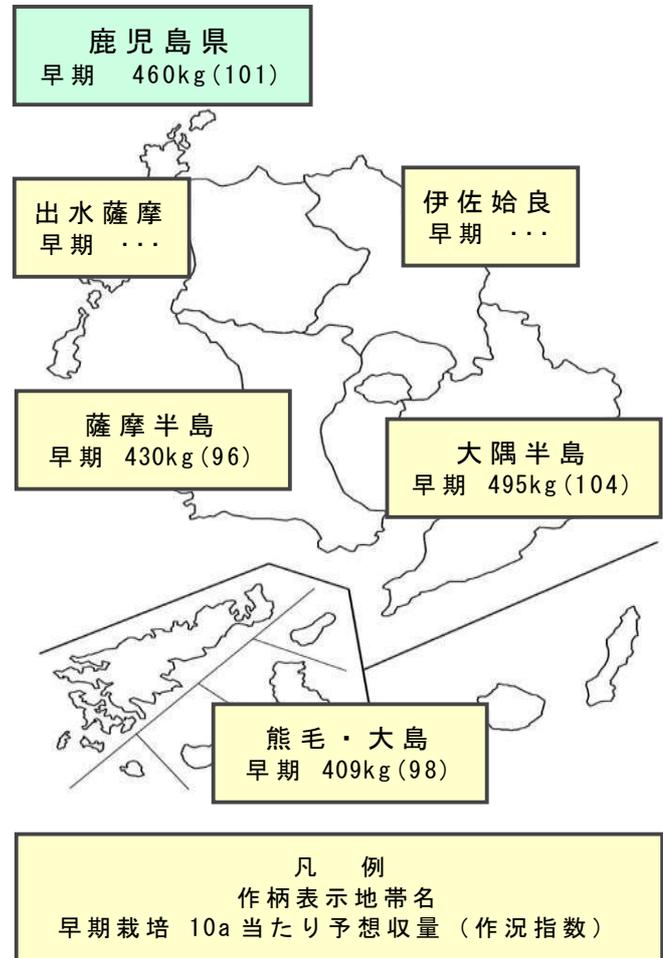
(ウ) 被害は、気象被害では、分けつ後期の5月中旬から5月下旬の日照不足や8月中旬以降の降雨の影響により一部地域で倒伏がみられ、収穫の遅い品種への影響が懸念されます。

病害では、いもち病や紋枯病の発生がみられました。

虫害では、スクミリンゴガイ、コブノメイガ及びカメムシの発生がみられました。

- 注：1 10a当たり予想収量は、1.70mmふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 2 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。鹿児島県においては、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
 3 図3中の「…」は、調査を欠くことを示しています。

図3 作柄表示地帯別早期栽培の10a当たり予想収量(子実用)



作況指数	作柄
106以上	良
105～102	やや良
101～99	平年並み
98～95	やや不良
94以下	不良

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
薩摩半島	鹿児島市、枕崎市、指宿市、日置市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、三島村、十島村
出水薩摩	阿久根市、出水市、薩摩川内市、さつま町、長島町
伊佐始良	霧島市、伊佐市、始良市、湧水町
大隅半島	鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町
熊毛・大島	西之表市、奄美市、中種子町、南種子町、屋久島町、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町

4 田植及び出穂の状況（8月15日現在）

九州各県における田植最盛期は、平年に比べ平年並みから2日早くなりました。

宮崎県及び鹿児島県の早期栽培の出穂最盛期は、平年に比べ宮崎県は1日遅く、鹿児島県は1日早くなりました。

表4 令和3年産水稻の田植及び出穂の状況（8月15日現在）

区 分	田 植 期					出 穂 期					出穂済面積割合	
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		当年値	対平年差
				対平年差	対前年差				対平年差	対前年差		
	月 日	月 日	月 日			月 日	月 日	月 日			%	ポイント
福 岡	5. 17	6. 16	6. 28	1日早	並み	8. 1	…	…	…	…	35	0
福 岡	4. 29	6. 18	6. 27	並み	並み	7. 19	…	…	…	…	31	△2
北 東 部	4. 24	6. 8	6. 27	並み	1日遅	7. 18	8. 8	…	4日早	5日早	74	2
筑 後	6. 12	6. 22	6. 28	1日早	1日遅	…	…	…	…	…	4	△1
佐 賀	5. 6	6. 19	6. 28	1日早	1日早	7. 21	…	…	…	…	26	1
佐 賀	6. 5	6. 20	6. 28	1日早	1日早	8. 8	…	…	…	…	18	0
松 浦	4. 23	6. 10	6. 24	並み	並み	7. 11	8. 12	…	1日早	4日早	61	4
長 崎	4. 19	6. 14	6. 28	1日早	並み	7. 15	…	…	…	…	14	0
南 部	6. 4	6. 20	6. 29	1日早	1日遅	…	…	…	…	…	2	1
北 部	4. 15	6. 9	6. 26	2日早	1日早	7. 11	…	…	…	…	25	△1
五 島	4. 14	6. 13	6. 19	1日遅	3日遅	7. 7	…	…	…	…	32	6
壱岐・対馬	4. 19	5. 22	6. 14	1日早	並み	7. 13	…	…	…	…	38	0
熊 本	4. 24	6. 14	7. 5	1日早	並み	7. 15	…	…	…	…	23	△1
県 北	6. 6	6. 24	7. 5	1日早	並み	…	…	…	…	…	3	0
阿 蘇	5. 13	5. 21	6. 9	3日早	2日早	7. 28	8. 6	…	2日早	3日早	74	3
県 南	5. 13	6. 19	7. 15	並み	1日遅	7. 26	…	…	…	…	24	△1
天 草	4. 3	4. 12	6. 19	並み	1日遅	6. 30	7. 11	…	並み	並み	79	△1
大 分	5. 15	6. 13	6. 28	並み	並み	7. 29	…	…	…	…	19	0
北 部	5. 19	6. 19	6. 28	並み	並み	7. 26	…	…	…	…	9	0
湾 岸	5. 17	6. 15	7. 1	並み	2日遅	7. 29	…	…	…	…	14	0
南 部	5. 9	6. 6	6. 26	2日早	1日早	7. 31	…	…	…	…	25	0
日 田	5. 15	5. 30	6. 22	2日早	並み	8. 3	…	…	…	…	48	△1
宮崎(早期)	3. 19	3. 25	4. 4	1日早	並み	6. 20	6. 25	7. 2	1日遅	1日遅	100	0
広域沿海	3. 19	3. 25	4. 4	1日早	並み	6. 20	6. 25	7. 2	1日遅	1日遅	100	0
宮崎(普通)	5. 30	6. 15	6. 27	並み	1日遅	…	…	…	…	…	4	1
広域沿海	5. 28	6. 15	6. 26	並み	1日遅	…	…	…	…	…	4	1
広域霧島	6. 1	6. 16	6. 28	1日遅	1日遅	…	…	…	…	…	3	0
西北山間	5. 22	6. 5	6. 24	5日早	3日早	8. 14	…	…	…	…	6	2
鹿児島(早期)	3. 23	4. 2	4. 13	2日早	並み	6. 17	6. 24	7. 15	1日早	2日早	100	0
薩摩半島	3. 16	3. 28	4. 12	4日早	1日早	6. 15	6. 21	7. 4	3日早	3日早	100	0
大隅半島	3. 30	4. 7	4. 16	1日早	1日遅	6. 21	6. 27	7. 17	並み	並み	100	0
熊毛・大島	3. 15	3. 19	4. 5	3日早	2日早	6. 9	6. 14	6. 20	4日早	6日早	100	0
鹿児島(普通)	6. 8	6. 20	7. 1	1日早	並み	…	…	…	…	…	0	0
薩摩半島	6. 12	6. 20	6. 30	1日早	2日遅	…	…	…	…	…	0	0
出水薩摩	6. 10	6. 20	7. 7	2日早	1日早	…	…	…	…	…	0	0
伊佐始良	6. 6	6. 20	6. 28	並み	並み	…	…	…	…	…	1	0
大隅半島	6. 7	6. 16	6. 28	1日早	1日早	…	…	…	…	…	0	0

- 注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。
 2 出穂期の始期、最盛期及び終期の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示します。
 3 出穂済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示します。

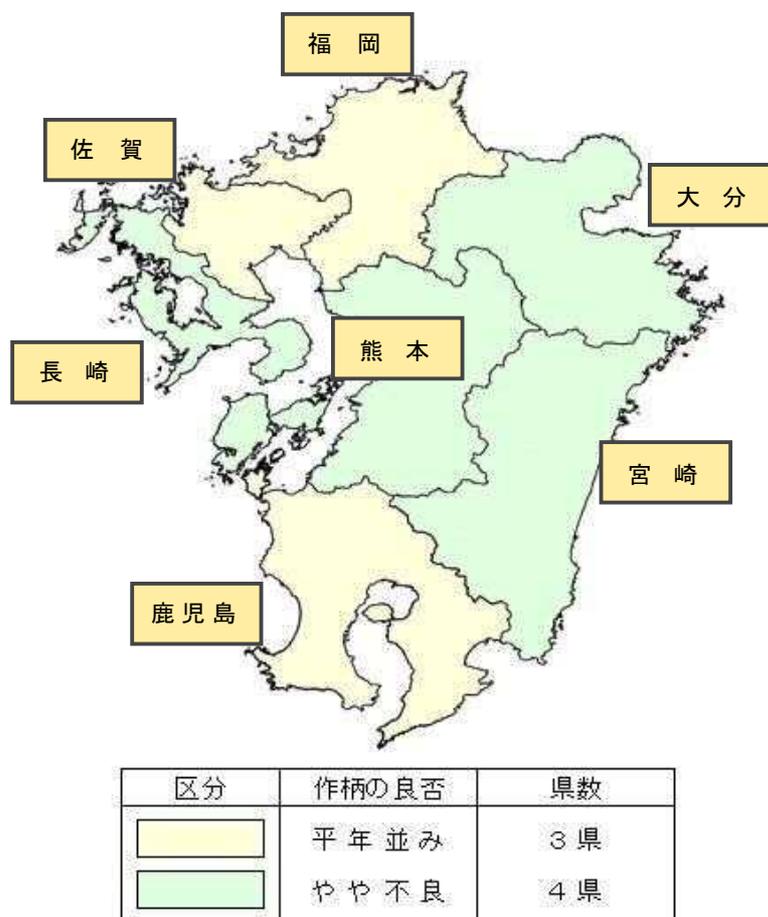
【作柄予測結果の概要】

遅場地帯（宮崎県及び鹿児島県の早期栽培を除く）における気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）から作成される予測式（重回帰式）に基づき予測した作柄は、「平年並み」から「やや不良」が見込まれます。

表5 令和3年産遅場地帯（宮崎県及び鹿児島県の早期栽培を除く）の作柄概況（8月15日現在）

区 分	作柄の良否 (平年比較)
福 岡	平年並み
佐 賀	平年並み
長 崎	やや不良
熊 本	やや不良
大 分	やや不良
宮 崎 (普通栽培)	やや不良
鹿 児 島 (普通栽培)	平年並み

図4 遅場地帯（宮崎県及び鹿児島県の早期栽培を除く）の作柄の良否



- 注：1 遅場地帯（宮崎県及び鹿児島県の早期栽培を除く）の作柄の良否は、気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10a 当たり予想収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものです。
- 2 本表における平年比較の表示区分は、「良」が対平年比 106%以上、「やや良」が 105～102%、「平年並み」が 101～99%、「やや不良」が 98～95%、「不良」が 94%以下に相当します。

【調査の概要】

1 調査及び作柄予測の目的

本調査（作物統計調査の作柄概況調査として実施）及び作柄予測は、水稻の生育・作柄概況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査及び作柄予測の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、九州各県（作況標本筆の実測調査は、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培を対象に実施しました。

(2) 調査対象の選定

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

作況標本筆： 1,495 筆 作況基準筆： 47 筆

(4) 作柄予測の対象

作柄予測は、九州各県（宮崎県及び鹿児島県における早期栽培を除く）を対象に実施しました。

3 調査事項及び作柄予測の把握項目

(1) 調査項目

田植期の遅速、出穂期の遅速、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種条件等

(2) 作柄予測の把握項目

10a 当たり予測収量

4 調査及び作柄予測の期日

令和3年8月15日現在

5 調査・集計方法

(1) 収穫量調査（宮崎県及び鹿児島県における早期栽培）

ア 母集団

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、田耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としています。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っています。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に水稻の作付面積に10a当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分します。階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出します。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とします。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行います。

オ 10a 当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数（1㎡分×3か所の株数）の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの）となるように選別し、10a 当たり玄米重を決定します。

カ 10a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10a 当たり玄米重の平均を基に、都道府県別の10a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a 当たり収量を推定しま

す。さらに、作況基準筆（10 a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいいます。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完します。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した 10 a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求めます。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握します。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握します。

(2) 作柄概況調査

(1)の収穫量調査と同じです。

ただし、実測を行えない事項は、過去の調査結果や気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）により、地方農政局等の職員が予測し、取りまとめています。

(3) 遅場地帯における作柄の良否の把握（宮崎県及び鹿児島県の早期栽培を除く）

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10 a 当たり予想収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものです。

なお、10 a 当たり予想収量は、未確定の要素が多いことから公表していません。

6 用語の解説

(1) 「作柄の良否」とは、10 a 当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の 5 段階で表しています。

(2) 「穂数の多少」とは、1 m²当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの 5 段階で表しています。

(3) 「1 穂当たりもみ数の多少」とは、1 穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの 5 段階で表しています。

(4) 「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの 5 段階で表しています。

(5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の 5 段階で表しています。

(6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した 1 m²当たり穂数等の平年値との比較です。

(7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する 10 a 当たり収量の比率です。

なお、平成 26 年産以前の作況指数は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成 27 年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでのふるいの目幅（九州では 1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出していました。令和 2 年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

【令和 3 年産の作況指数算出に用いるふるい目幅(九州管内)】

- ・農家等使用目幅 1.85mm 福岡県、佐賀県、熊本県
- ・農家等使用目幅 1.80mm 長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県

(8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される 10 a 当たり収量をいいます。

7 利用上の注意

(1) 統計数値については、次の方法で四捨五入しています。

原 数	7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)	3桁	2桁		1桁	四捨五入 しない
例					
四捨五入する前 (原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
四捨五入した後 (統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

(2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和3年産水稻の8月15日現在における作柄概況(九州)」(農林水産省九州農政局)による旨を記載してください。

8 その他

本調査における作柄概況(8月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っています。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがあります。

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>統計情報
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

九州農政局ホームページアドレス
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/>



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>

お問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部
 生産流通消費統計課 生産統計第2係
 電話：(代)096-211-9111 内線 4939・4941
 直通電話：096-300-9047

◎各県別の調査結果について

県名等	連絡先	電話番号
福岡	九州農政局 福岡県拠点 統計チーム	(直通)092-281-8262
佐賀	九州農政局 佐賀県拠点 統計チーム	(直通)0952-26-4138
長崎	九州農政局 長崎県拠点 統計チーム	(直通)095-845-6227
熊本	九州農政局 統計部 統計調査チーム	(直通)096-300-6579
大分	九州農政局 大分県拠点 統計チーム	(直通)097-532-6177
宮崎	九州農政局 宮崎県拠点 統計チーム	(直通)0985-24-2373
鹿児島	九州農政局 鹿児島県拠点 統計チーム	(直通)099-222-7564

◎農林統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部 統計企画課 企画係
 電話：(代)096-211-9111 内線 4923
 直通電話：096-300-6540